

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

## 震災から3年4カ月 ただただ誠実に、 素材に向き合うことを続けます ～石巻・高橋徳治商店 新工場1周年～



**全国の仲間と共に、新工場が稼働して1周年を迎えました**  
震災から3年4カ月。そして、みんなの「協同の力」で再び立ち上がった新工場稼働から7月で1周年。これからもご一緒に、「までい」に。

**「インターねっと注文」  
登録者受付中です!**

**常総生協のホームページからカンタン登録!  
まずは「常総生協」で検索!**

**常総生協に新しい仲間が加わりました!  
～こんな理由で加入しました～**

**常総生協「インターねっと注文」ではこんなことができます!**

- ★カタログに掲載されている商品は全て注文できます。
- ★締め切り時間までなら何度でも注文変更できます。
- ★過去の注文一覧を見ることができます。
- ★「お気に入り」登録した商品は、その商品が企画されている時にお知らせします。
- ★「意見欄」や商品の「口コミ」投稿、「ランキング」投票もできるようになりました。ぜひ登録してみてください!

以前、お誘いスタッフの方から常総生協に誘われた時に「鈴木さんのヨーグルト」を試食させて頂きました。その時は違う生協に加入していたのでお断りしてしまいましたが、新聞折り込みで「常総生協実感キャンペーン」のチラシを見て、鈴木さんのヨーグルトの味が忘れられず加入しました。  
(つくば市 Mさん)

## 【高橋徳治商店新工場 1周年】

「大切なこと、譲れないことを忘れない」 高橋徳治商店 高橋英雄



2013年7月5日の竣工式時の新工場



2014年7月5日、高台の新工場の落成式からもう一年が経ちました。

今朝、石巻は震度3でしたが岩手県は震度5でした。色んな意味で揺れ続けた一年、そして3年4ヶ月。

稼働は震災前の半分以下ですがお陰様で売上げは60%まで回復し、採算にはまだまだですがスタッフ40名は…いやあ〜、とっても元気です。

先日は前倒しでスタッフだけでささやかな1周年を祝う会を行い居酒屋さんで飲み放題二時間。食べ方の速さに料理が追いつかないとビックリされたとか。。。最後は私のスピーチで、これまでの三年、そしてこの一年、全員に本当に本当に頑張ってくれて有り難う。初めて言うが外では話しているんですよ、「スタッフ全員私の誇りだど！」って。



目を潤ませているスタッフたちは、本当に自慢で宝です。まあ私の目にも頬を伝わるものがありました。

ただただ誠実に、素材に向き合うことをしつこく続けています。

大切なこと、大事なこと、譲れないことを忘れないで、もう一年頑張ります。



昨年植えたハーブのラベンダーが見事に花を咲かせ、いい香りを漂わせています。

皆様にこの一年、三年四ヶ月の温かいご支援に感謝して。

有り難うございました。

(株)高橋徳治商店  
代表取締役 高橋英雄  
& 40名の頑張り屋スタッフより

**今週(8月1回)の10ページで、高橋徳治商店の練り製品が紹介されています。**



**魚をたくさん食べてほしい！  
だから、高橋徳治商店の練り物には「リン酸塩」は使いません。**

市販の練り物の裏面をご覧ください。「リン酸塩」と書いてありませんか？これは、魚肉は少なめで水を加えて増量しても「プルプル感」を出せる食品添加物(厄介なことに原料すり身に使われている場合は表示義務は無いので記載無いこともあります)。摂りすぎると体外に排出する時にカルシウムも一緒に道連れにしますので、骨形成が重要なお子さんや、骨粗鬆症になりやすい高齢者は避けることをお勧めします。

## 【委員会報告】

～梅雨でも元気にがんばっています！～

# 第34回 脱原発と暮らし見直し委員会（7/1）



- ・7月1日（火）組合員計14人が参加し、話し合いと製本作業（※）、それにエクセルの講習会を行いました（※ボランティア募集中）。
- ・今回は、初参加の組合員が3人（つくばみらい市2人、土浦市1人）もありました。
- ・また、前回に続き、映画監督 岩崎充利さん（児玉順一先生のお知り合い）が生協と私たちの活動の取材に来られました。

## ■6月の活動・参加■

- ・6/5（木）～9（月）  
飛田晋秀写真展「福島のすがた」（洞峰公園新都市記念館）
- ・6/15（日）  
環境セミナー「福島第一原発事故現場の状況と東海第二原発の被災」（那珂）
- ・6/29（日）  
茨城県母親大会・分科会「ビキニ被ばくの真相から福島を考える」（笠間高校）

## ■今回の討議■

食品や土壌のセシウム測定結果のデータ作りと活用について。

- ・常総生協活動エリア19市町のデータ収集を計画しています。
- ・自治体によって検査対応が異なっています。どこのデータをどう集めるか検討中です。
- ・データ収集メンバーは引き続き募集しています（生協までご連絡ください。自治体単位のデータを収集しメールで送信するメンバーです）。

世の中「のど元」過ぎてしまっていますが、引き続き子どもたちの健康を守りましょう！一人ひとりができることを！

次回の「脱原発と暮らし見直し委員会」は、8月は夏休みとし、**9月1日（月）10時～**です。  
場所は、脱原発ネット茨城のご協力で土浦市の古民家「ともいきの郷」にて開催します。  
**参加ご希望の方は、050-5511-3926（生協本部）までご連絡ください。車両等手配します。**

## 【放射能から子どもを守ろう関東ネットからのお知らせ】

# 「そうだ！保養に行こう！」（保養ガイド配布）

～ホットスポットで暮らす私たちが、いま子どもたちにできること～

いきいきと笑顔で子育てしたい。放射能から子どもを守ろう関東ネットでは、「汚染状況重点調査地域」で支え合い生きていくために3年経った今見えてきたこと、これから出来ることを「関東ネット」の皆さんがリーフレットにして伝えていく活動をスタートさせました。

今回は「保養の必要性&情報」をテーマにまとめました。

この夏ぜひ皆さんにご覧頂き、行動のきっかけとなればと思います。



原発事故から3年。線量は下がっている様ですが、まだ高いところもあり、出来ることなら良い環境での保養が、子ども達の身と健康には必要だと思います。「でも保養って言ったって、どうすればいいの？」という疑問ももっとも。「保養」について肩ひじ張らずに考えられるリーフレットが参考になればと思います。

リーフレット「そうだ！保養に行こう！」をご希望の方は、**8/1回注文用紙の【463番】**に必要部数をご記入ください（無料です）。（準備でき次第供給便で届けます）

# 常総生協の生産者（鈴木さん、天池さん）と取り組みが、新聞で紹介されました！（2014/7/13 朝日新聞）

享月 日 新 聞 第3種郵便物認可

## 線量公表 「安全」届けたい

東京電力福島第一原発事故から3年余り。原発から200キロ近く離れた茨城、千葉県境の生活協同組合と農業生産者が、放射能汚染を乗り越えて「食の安全」を守ろうと試行錯誤を続けている。

### 生協、食品・母乳を検査



#### 茨城県・千葉県

今年6月、常総生活協同組合（茨城県守谷市、組合員約5700人）の生産者交流会があった。生協に農水産物などを納める生産者と消費者との顔合わせだ。

7年前に組合員になった千葉県流山市の助産師の女性（37）は、交流会に参加したのは初めて。「直接、生産者に作物の作り方や食べ方が聞けるので楽しい」。小学4年と5歳の姉妹の母親。「食の安全には気を使おう。原発事故の直後は、遠い産地の生鮮食品を選ぶこともあった。ここはきちんと検査を続けていて信頼できる」と、利用を続けている。

常総生協は、福島原発から150〜200キロ離れた茨城県南や千葉県北が活動区域。有機農産物の扱いや地場のものを食べる「地産地消」に力を入れる。取り扱う農作物の中で地場

## 再見細見 地域から



東京電力福島第一原子力発電所  
茨城県  
石岡市  
守谷市  
千葉県  
流山市

産（両県産）は65%を占める。事故後、活動区域で局地的に高い放射能が観測された「ホットスポット」が判明した。「地産地消」を続けられるか。「放射能を調べて公表することが結果として信頼を得る」（大石光伸副理事長）との方針で検



生産者交流会で親子に試食用のヨーグルトやナチュラルチーズをすすめる酪農家の鈴木昇さん（右）＝茨城県つくば市

査に取り組んだ。放射線検査は生産者と消費者の協力を得た。事故直後から、農作物や生鮮食品、田畑のほか、地場産品や水道水を採取した消費者の母乳や住宅地の土壌なども調べてきた。2012年には2千万円で高性能のゲルマニウム半導体測定機を導入。3年間で約9千検体を調べた。13年度に検査した食品1099検体のうち998検体は不検出

### 土づくりで放射能対策

「いい牛乳は土づくりから」が鈴木さんのモットーだ。鈴木さんが作る堆肥はさらさらで臭いがない。それを4・4畝の畑に入れ、土づくりをして良質の牧草を育てる。いい牧草を食べる牛はいい乳を出す、という

わけだ。「土づくり」に注目しているのは新潟大学大学院の野中昌法教授（土壌学）。「作物などへの放射能の影響を下げるには、堆肥などによる土づくりが大切だ」と強調する。畑に堆肥を入れ腐植（土壌有機物）を増やせば、放射性セシウムが土壌中の腐植に固定され、作物に移行しにくくなる仕組みがあるという。

野中教授はこれまでに250回以上、福島県を訪れるなどして、土壌中の放射性物質の働きや、作物への移行などについて、東京農工大や福島大などのグループと調査を続けている。これまでの調査では、堆肥を入れて腐植が多くなっている畑の作物は、入っていない畑の作物より放射性セシウム含量が30〜40%低かったという。

### 発信継続が大事

常総生協に野菜セットを提

供する石岡市の天池昌二さん（66）。東京でアパレル会社に勤めていたが、有機農業を志して16年前に脱サラし、1・5畝の畑を借りた。「いい肥料を得る」ためにニワトリ300羽を飼い、夫婦で土づくりに汗を流してきた。土づくりは放射能対策としても意味があるという話は天池さんを勇気づけた。「有機農業を選んだことは間違いないではなかった」

原発事故直後、常総生協に野菜セットを出荷している生産者らは「（1）で、農業を続けられるか」「安全な野菜を提供できるのか」と悩んだが、生協が2カ月後に実施した土壌検査で放射線量の数値が低かったことから、不安は解消されたという。

それでも事故から半年後の野菜セットの注文は半減した。その後も注文数は事故前の水準には戻らず、ほぼ3割減という。「家族経営だから維持できているが」と天池さん。妻の由美さん（55）は旧ソ連のチエルノブイリ事故の時、おなかに長男がいた。由美さんは「あのときは、イタリヤのバスをしばらくは口にしなければならなかった。だから小さな子のいる消費者の不安はわかる」。天池さんは、二度と原発事故を起こさせないために、「原発事故による影響を検査してデータを発信する取り組みを継続し、世の中に問い続けることが大事だ」と話す。（新波祥）

ご意見や情報をお寄せ下さい  
ファックスは 03-5556-0837  
メールは sakien2@asahi.com

7/13(日)の朝日新聞35面(地域総合)です。ぜひお友達にもご紹介ください！